

2013年度 教育課程論 II
II. 学力評価とカリキュラム設計
 (教育課程)

2013年11月6日収録
 京都大学 西岡加名恵

◎本授業の流れ

- I. オリエンテーション
- II. 学力評価とカリキュラム設計
(教育課程)
- III. 教育課程の歴史
～教育課程をめぐる論点
- IV. 課題Eの発表会

2

II. 学力評価とカリキュラム設計

- 教育評価の基本用語 ……10月16日
パフォーマンス評価とは何か
- カリキュラムの「逆向き設計」 ……10月23日
～パフォーマンス課題、ルーブリック、指導計画
- 学力評価計画の立て方 ……10月30日
看護教育におけるパフォーマンス課題
ポートフォリオ評価法
- パフォーマンス課題づくり →課題B
学力評価計画の策定 →課題C
ポートフォリオの設計 →課題D(あ)

3

◎予め資料をプリントアウトして、手元で見ながら視聴してください。

◎「日々の記録」◎

- 課題B「パフォーマンス課題づくり」/
課題C「学力評価計画の策定」に取り組んだ際に、自分なりに工夫した点や発見したことについて述べなさい。
- 課題D(あ)「ポートフォリオの設計——生徒への説明」に取り組んだ際に想定していた学校の特徴について述べなさい。

4

◎「逆向き設計」論
～『理解をもたらすカリキュラム設計』



↑ G・ウィギンズ&J・マクタイ著(西岡加名恵訳)『理解をもたらすカリキュラム設計——「逆向き設計」の理論と方法』日本標準、2013年



↑ 西岡加名恵編著『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』明治図書、2008年



↑ 西岡加名恵・田中耕治編著『「活用する力」を育てる授業と評価・中学校』学事出版、2009年

5

●「逆向き設計」論

求められている結果(目標)を明確にする

→

承認できる証拠(評価方法)を決定する

→

学習経験と指導を計画する

修了時をイメージする

指導の前に評価方法を計画する

(Wiggins, G. & McTighe, J., *Understanding by Design*, ASCD, 1998/2005, G・ウィギンズ&J・マクタイ、西岡加名恵訳『理解をもたらすカリキュラム設計』日本標準、2012年)

6

課題B パフォーマンス課題づくり

- 自分の好きな教科・学年の単元を1つ選び、パフォーマンス課題を1つ作ってください。その際、単元における「本質的な問い」と「永続的理解」を考え、たうえで、課題のシナリオを考案してください。

→パフォーマンス課題の事例：
2013年10月16日・23日のOCW参照

7

(1) パフォーマンス評価とは・・・

- 知識やスキルを使いこなす(活用・応用・総合すること)を求めるような評価方法(問題や課題)

(2) パフォーマンス課題とは・・・

- 様々な知識やスキルを総合して使いこなすことを求めるような、複雑な課題。
- 具体的には、論説文やレポート、展示物といった完成作品(プロダクト)や、スピーチやプレゼンテーション、実験の実施といった実演(狭義のパフォーマンス)を評価する課題。

8

◎レポートを書く



(三藤あさみ先生提供。
三藤あさみ・西岡加名恵
『パフォーマンス評価に
どう取り組むか』日本標準、
2010年参照)

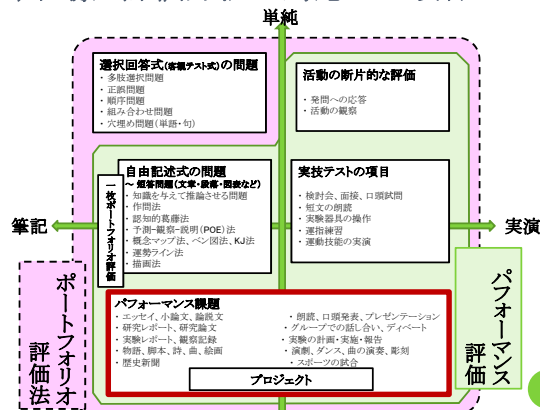
◎プレゼンテーションをする



(京都府立園部高等学校 廣瀬格先生提供)

10

(3) 目標と評価方法の対応 →資料1



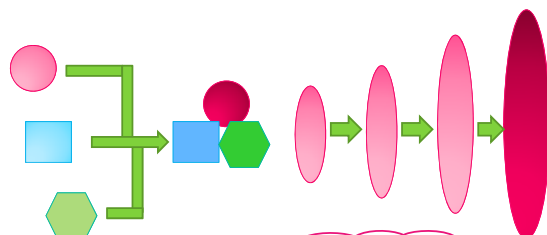
(西岡加名恵・田中耕治編著『活用する力』を育てる授業と評価・中学校』学事出版、2009年、p.9参照)

11

(4) パフォーマンス課題のパターン (単元内、単元間の構造)

パーツ組み立て型

繰り返し型



単元を選ぶ際の
注意点

12

(5) パフォーマンス課題づくりの手順

- ① 単元の中核に位置する重点目標に見当をつける。
- ② 「本質的な問い」を明確にする。
- ③ その問いに対してどのようなレベルの答えに達してほしいか(「原理や一般化」についての「永続的理解」)を明文化する。
- ④ パフォーマンス課題のシナリオを作る。
(目的、役割、相手、状況、パフォーマンス、評価規準)

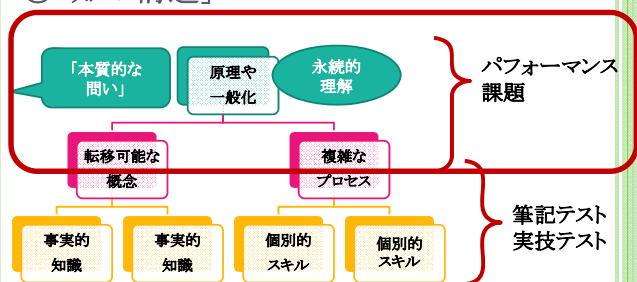
13

◎一枚ポートフォリオの裏面
Bのセクション

教科: 学校段階: 学年:	
単元名:	
問い	理解
パフォーマンス課題	
参考文献	

14

◎「知の構造」



(McTighe, J. & Wiggins, G., *Understanding by Design: Professional Development Workbook*, ASCD, 2004, p.65の図や, Erickson, H.L., *Stirring the Head, Heart, and Soul*, 3rd Ed. Corwin Press, 2008, p.31の図をもとに作成。G・ウイギンズ/J・マクタイ、西岡加名恵訳『理解をもたらしカリキュラム設計——「逆向き設計」の理論と方法』日本標準、2012年も参照)

15

◎ワークショップで行う場合

- 準備物: A3用紙2枚、マジック
- A3用紙の準備

教科、学年、単元、氏名	
問い	理解

教科、学年、単元、氏名	
G(目的) R(役割) A(相手) S(状況) P(作品) S(観点)	

16

① 単元の中核にある重点目標に見当をつける

- 教科書で、単元を選ぶ。
- 学習指導要領で、その単元に対応する目標・内容、内容の取扱いの部分を読む。
http://www.mext.go.jp/a_menu/shoutou/new-cs/youryou/index.htm



キーワードについて
辞典・事典を引いたり、
関連文献を読むことも重要。

- 「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」(2010年5月11日)
→ 別紙5 各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨(小・中学校)、別紙6 各教科の評価の観点及びその趣旨(高等学校)
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/attach/1293807.htm
- 「評価規準の作成のための参考資料」(国立教育政策研究所)
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidouairyuu.html>

教科書会社のウェブページに役立つ資料が載っていることも多い。

「思考・判断・表現」の観点に書かれた文言をみると、パフォーマンス課題をイメージしやすい場合が多い。

②「本質的な問い」を明確にする

「本質的な問い」の例

1. どのように話せばいいのか？
2. その国の特徴は、どのように捉えられるのか？
3. 自然や社会の中にある、ともなう変わる2つの数量の関係はどのように捉えられるのか？
4. 星は天球上をどのように動くのだろうか？
5. この音楽のイメージは、どのように捉えられるのか？

「本質的ではない問い」の例

1. アイ・コンタクトとは何か？
2. 中国の人口は何人か？
3. 品物の値段と消費税の関係は、比例か？
4. 今日の日出の時刻は何時か？
5. この曲の名前は何か？

19

◎「本質的な問い」の特徴

20

◎一枚ポートフォリオの裏面
Bのセクション

教科:	学校段階:	学年:
単元名:		
問い	理解	
パ課題		
参考文献		

「本質的な問い」を思いっただけ書いてみましょう。

21

◎「問い」の入れ子構造

- ◆ 方法論の問い
- ◆ 概念理解の問い

包括的な「本質的な問い」

単元ごとの「本質的な問い」

- 授業での主発問
- 授業での主発問
- 授業での主発問
- 授業での主発問

単元ごとの「本質的な問い」

- 授業での主発問
- 授業での主発問
- 授業での主発問
- 授業での主発問

22

◆「本質的な問い」の例

- ◎・どのように話せばよいのか？
- ・小説「海の命」の読書会において、お互いの読みを深めるためには、グループでどのように話し合えばよいのか？
 - ・与吉じいさは、なぜ20匹しか魚を取らないのだろうか？

※包括的な「本質的な問い」に◎、単元ごとの「本質的な問い」に○をつけてみましょう。

※単元ごとの「本質的な問い」は、1つか2つに絞りましょう。

→概念理解と方法論

23

(宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法 実践編』日本標準、2004年参照)

③「永続的理解」を明文化する

- 「永続的理解(原理・一般化)」は必ず完全な文(「～は、～である。')として書く。
 - ×「南北戦争の原因がわかる。」
 - 「南北戦争は、州の権利と論点、南北の根本的な経済的・文化的差異、奴隷制についての分断された意見といった複数の要因によって勃発した。」
 - ×「速く泳ぐことができる。」
 - 「速く泳ぐためには、引っ張って、押す水の量を最大にするため、手のひらを平らにして泳ぐことが大切である。」

24

◆「永続的理解」の例

- グループで、うまく読書会をするには、メンバー全員が言うべき時に意見を述べることが重要である。相手の発言に関心を持って聞き、質問したり感想を述べたりして、相手の発言に関わると、良い話し合いになる。また、物語の読みを深めるためには、書かれている内容について疑問に思ったことを問いかけたり、特に印象に残った点について意見を交流したりすると良い。

(宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法 実践編』日本標準、2004年参照)

25

◎一枚ポートフォリオの裏面
Bのセクション

教科:	学校段階:	学年:
単元名:		
問い	理解	

※児童・生徒に身に付けさせたい「永続的理解」は、授業中に児童・生徒の様子を観察したり、授業後に児童・生徒の作品を分析したりすることによって、より明確になる場合も少なくありません。

26

※「永続的理解」の書き方

- 「～とは何か？」
→「～とは、……である。」
×「～とは何かはわかる。」
- 「～するには、どうすればよいか？」
→「～するには、……するとよい。」
×「～することができる。」

27

④パフォーマンス課題のシナリオを作る
◎シナリオ作りの6要素 (GRASPS)

- な—何が目的 (Goal) か？
 - やん— (子どもが担う) 役割 (Role) は何か？
 - だ—誰が相手 (Audience) か？
アア
 - そ—想定されている状況 (Situation) は？
 - う—生み出すべき完成作品・パフォーマンス (Product, Performance) は？
 - か— (評価の) 観点 (Standard, criteria) は？
- ※必ずしも使わなくてもOKです。

(西岡加名恵編著『逆向き設計』で確かな学力を保障する』明治図書、2008年。西岡加名恵・田中耕治編著『活用する力』を育てる授業と評価・中学校』学事出版、2009年)

28

◆パフォーマンス課題の例
「読書会をしよう！」(小学校・国語科)

- グループに分かれて、読書会をします。物語を読み、「じっくり考えてみたいなあ」と思ったり、「友達と話し合ってみたいなあ」と思ったことについて、20分程度、話し合いをしましょう。お互いの発言を生かしながら、読みを深めるような話し合いになるといいですね。

(宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法 実践編』日本標準、2004年参照)

29

◎一枚ポートフォリオの裏面
Bのセクション

教科:	学校段階:	学年:
単元名:		
問い	理解	
パフォーマンス課題		
目的		
役割		
相手		
状況		
作品		
観点		
参考文献		

30

※質のいい課題の条件

- ①妥当性 (validity) :
測りたい学力に対応しているか？
←「本質的な問い」「永続的理解」に対応しているか？
- ②真正性 (authenticity) :
リアルな課題になっているか？ 現実世界で試されるような力に対応している？
- ③レバンス (relevance: 関連性、切実さ) :
生徒たちの身に迫り、やる気を起こさせるような課題か？
- ④レディネス (readiness) :
生徒たちが背伸びをすれば手が届く程度の、ちょうど良い難度か？

(西岡加名恵「パフォーマンス課題作りのチェックリスト」西岡加名恵・田中耕治編著『活用する力』を育てる授業と評価・中学校』学事出版、2009年、p.19)

31

◎一枚ポートフォリオの裏面
Bのセクション

教科: 学校段階: 学年:	
単元名:	
問い	理解
パ課題	
参考文献	

32

(6) 実演の評価

◎課題「読書会をしよう！」の実践 →資料6②



(宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法 実践編』日本標準、2004年、p.105)

33

◎課題「読書会をしよう！」のルーブリック

→資料6③

5 すばしい	◎読書会が活発に話し合いが盛んで、積極的な意見を述べている。互いの意見を尊重し、自分の意見を述べている。話し合いの場が活発に行われている。話し合いのメンバーにも配慮することができ、時間をうまく使っている。発言の回数も増えてきている。話し合いの場が活発に行われている。
4 よい	◎話し合いにおける発言の回数が増えている。自分の意見を述べている。相手の意見に敬意を持って聞き、質問したり感想を述べたりして、相手の意見が活かされている。
3 普通	◎読書会の話し合いが活発に行われている。自分の意見を述べている。相手の意見に敬意を持って聞き、質問したり感想を述べたりして、相手の意見が活かされている。
2 あこ ましい	◎読書会の話し合いが活発に行われている。自分の意見を述べている。相手の意見に敬意を持って聞き、質問したり感想を述べたりして、相手の意見が活かされている。
1 努力 が必要	◎話し合いの場が活発に行われている。自分の意見を述べている。相手の意見に敬意を持って聞き、質問したり感想を述べたりして、相手の意見が活かされている。

(宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法 実践編』日本標準、2004年、p.123)

34

■京都大学大学院教育学研究科

E.FORUM (<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/>)



8月と3月に研修

E.FORUM Online (EFO)
～データベースと掲示版

E.FORUMスタンダード
→ウェブページで公開予定

35

■「本質的な問い」の特徴

- 単純な一つの答えがない
(論争的、探究を触発、様々な深まり)
- 個々の知識やスキルが総合されていくような問い
- 様々な文脈で活用できるような問い(転移)
- 単元を越えて繰り返し現れるような問い
(再考を促す、転移、カリキュラムの系統性)
- 「だから何なのか？」が見えてくるような問い(学問の中核、生活との関連性など)
- ※「どのように～すればよいのか？」
- ※「～とは何か？」

36